

No. 1413

湯川秀樹博士逝く

日本人として初のノーベル賞を受賞した故湯川秀樹博士の葬儀が9月19日小雨降る京都市東山区の知恩院が営まれました。葬儀には政界をはじめ大学、平和団体など各界から約1,000人が参列。府立一中以来の友人だった湯浅佐一氏、福田衆議院議長などが次々と弔辞を述べ故人の遺業をたたえました。学者一家出身の湯川博士は大阪大学理学部で講師をしていた昭和9年「中間子論」を完成し、注目を集めました。そしてノーベル物理学賞に輝いたのは昭和9年、米国コロンビア大学客員教授の時だった。「雨降れば雨に放射能、雪積めば雪にありという世をいかに」と歌った湯川博士、科学者の良心に徹した故人を参列者は雨に打たれながらしのびました。

大マンモス展

— 愛知・犬山 —

氷河時代のドラマを再現した「大マンモス展」が今、愛知県・犬山市の日本モンキーパークで開かれています。今からおよそ200万年前、地球は氷河時代に入りました。氷点下50度以上になる厳しい寒さの中で動物の王者として君臨したマンモス。大きなものは4m以上もあり、体重は6トン、雄大なキバは長さ5m以上もあります。4年前、赤ちゃんマンモスの“完全な遺体”が発見され、世界中の話題となりましたが、この赤ちゃんマンモスは生後8ヶ月で飢え死にしたといわれています。700点にも及ぶ展示物が、氷河時代の終りと共に絶滅したマンモスの姿を現代によみがえらせています。

首相、北方領土を視察

オホーツクの海に浮ぶ島々。歯舞、色丹、国後、択捉の北方四島は日本固有の領土である。9月10日、鈴木首相は現職の総理大臣としては初めて北方領土を視察した。元島民ら、返還運動関係者は「苦難の道をたどる返還運動に、これではずみがつく」と首相の北方領土視察を歓迎した。鈴木首相は納沙布岬に立ち、「ソ連との間には領土問題を戦後の未解決問題として交渉することで合意している。今後もソ連と対話を進めていく」と語った。貝殻島のコンブ漁が5年ぶりに再開されたものの、領土問題には依然厳しい状況が続く。一日も早い返還を実現するためにも国民世論の高まりが望まれる